

特別展
— 埋もれた創業の記憶 —

今井焼

IMAIYAKI

犬山焼の前身とされてきた
今井焼宮ヶ洞窯の実態とは？
研究史の再検証と、宮ヶ洞窯跡の考古学的調査とともに
今井焼の失われた過去の姿をあばく

平成二六年九月三日「水」— 一〇月一九日「日」

講演会 ①

平成二六年九月一四日「日」— 一三時三〇分—

演題 『今井焼— 犬山におけるやきものの歴史—』

講師 特定非営利活動法人古代遼波の里・文化遺産ネットワーク 研究員・大塚友恵氏

講演会 ②

平成二六年一〇月一二日「日」— 一三時三〇分—

演題 『今井焼と瀬戸・美濃窯』

講師 公益財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化センター 主任・青木修氏

◆ 同時開催企画

『復古今井焼でお茶を！』

平成二六年九月七日「日」、九月二一日「日」、
一〇月五日「日」、一〇月一九日「日」、
各日一四時—

呈茶料三〇〇円（入館料は含みません）

館内四畳半にて、今井の土で焼いた拳骨茶碗と、
館蔵品の茶道具を使った呈茶をいたします。

（一日限定一席、先着五名様）



・公共交通機関の場合 犬山駅下車、西口より徒歩2分
・お車の場合 名神高速道路・小牧ICより、国道41号線経由25分
駐車場4台（内、障害者専用1台）有

財団法人 岩田洗心館

〒484-0081 愛知県犬山市大字犬山字富士見町26
TEL 0568-61-4634 <http://www.iwatasenshinkan.jp>

協力：特定非営利活動法人古代遼波の里・
文化遺産ネットワーク

開催にあたって

犬山市には、「犬山焼」と呼ばれるやきものがあります。犬山焼は、文化七年（1810）、犬山城下の東方、丸山新田（旧余坂村）に窯を築いたことにより生産が始まりましたが、明治六年（1873）には経営難を主な理由として廃窯に至りました。その後、明治十六年（1883）に設立された犬山陶器会社により犬山焼は復興し、伝統工芸品として今日まで引き継がれることになりました。

江戸時代に生産された犬山焼には、呉州手と呼ばれる赤絵や染付を基調とした大皿や鉢、碗、徳利、花瓶、水指などの器種が認められます。また、雲錦手が織りなす様々な意匠文様は、雅な世界を空想させる構図と器の特徴を生かした多彩な演出が施されており、美術工芸品としても高い評価を受けてきました。

一方で、犬山市には、「今井焼」と呼ばれるやきものもあり、これまで犬山焼の創始段階に帰属すると考えられてきました。今井焼は、18世紀中葉から後葉にかけて、今井字宮ヶ洞（旧今井村）の宮ヶ洞窯跡で生産された製品の総称とし扱われ、碗類、皿類、鉢類、瓶・壺類、その他などの器種組成から江戸時代の瀬戸・美濃窯製品に共通する特徴があります。また、各器種には、主に鉄釉・飴釉、灰釉が施され、犬山焼の製品とは明らかに異なる作風を示し、現在では別系列のやきものとして位置付けが可能となっています。

さて、今井焼の特徴として、拳骨茶碗や徳利などの製品に「犬山」とも解読できる押印文が施されている点にあります。押印文の確認できる伝世品には、窯跡から採集した資料に見られなかった広口壺や花瓶、瑠璃釉の施された水指などがあり、その生産形態を日用品の量産とは決めかねる事例も存在しています。

そこで本展示では、今井焼の「埋もれた創業の記憶」と題しまして、窯跡から採集した多種多様な資料と今井焼とされる伝世品を紹介し、その生産内容の実態解明に向けた検証を試みようと考えていますが、展示品から今井焼の魅力をご覧くださいことも目的としています。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、貴重な資料をご出品いただきました所蔵者の皆様をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成26年 9月 3日

財団法人 岩田洗心館